

防災行政無線の整備が完了

供用開始から13年が経過し、修繕等の対応が困難になりつつあった、防災行政無線の再整備が今月、完了します。市民の暮らしと安全を守るため、さらに迅速かつ確実な情報配信が可能になった設備を紹介します。



防災行政無線とは・・・

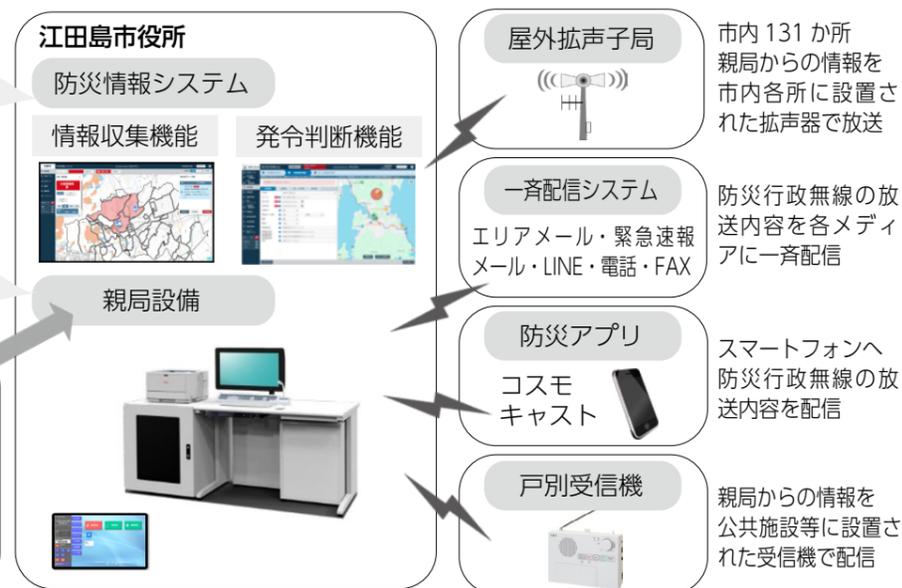
市内各地の屋外スピーカーや、屋内の戸別受信機を通じて、防災情報、行政情報、Jアラート等を音声で一斉に伝達する設備です。

防災行政無線の伝達イメージ図

河川水位や雨量など、発令判断に必要な情報を収集し、迅速な避難判断を可能にします。

親局1台
右の操作卓またはポータブル遠隔制御装置から放送します。

消防本部・各市民センターから遠隔で放送が可能



新たに導入された機能を紹介！

新たに導入された機能で、緊急時でもより安全で正確、迅速な情報発信が可能になりました。

屋外放送設備の停電対策の強化

市内全ての屋外拡声子局に最大72時間運用可能な長寿命バッテリーを搭載しており、災害時など外部からの電力供給がなくなっても持続的な屋外放送を可能とします。



蓄電池ボックス



長寿命バッテリーを内蔵

屋外スピーカーの音声自動調整・明瞭化

雨量が多い地域の屋外スピーカーの音量を自動調整する機能を追加しました。ハウリング等を防ぐことで悪天候時の情報伝達がより明瞭になり、雨の中でも聞き取りやすい音で放送します。



アプリ「市防災放送アプリ」

Jアラートなど緊急時は音声で、普段の行政放送は文字で、スマートフォンへお知らせするサービスです。防災行政無線の内容を、スマートフォンで確認できます。



▲市HP

発令判断支援システム

河川水位や雨量など、発令判断に必要な情報を自動で収集・集約する「発令判断支援システム」を導入。迅速な避難判断が可能となります。

一斉配信システム

防災行政無線の内容を、市ホームページ、メール、市防災アプリに一斉配信します。また、市公式LINEから、文字で確認することもできます。

家庭での災害への備えはできていますか？

災害が多い日本では、家庭での防災対策が非常に重要です。南海トラフ巨大地震は、約100年～150年間隔で発生しており、すでに80年以上が経過しています。政府の地震調査委員会では、今後30年以内の発生確率を「60%～90%程度以上」としてあります。

災害から自分の命を守るためには、日頃から災害に備えて家具類の転倒防止策や物資の備蓄に努めるほか、自分の住んでいる地域の危険箇所を把握し、避難について確認しておきましょう。

家庭での備蓄

各家庭は、3日分程度、可能な限り7日分程度の食品などの備蓄に努め、避難するときの最小限度の必需品の、非常持ち出し袋は玄関や寝室などの手の届きやすい場所へ置いておきましょう。



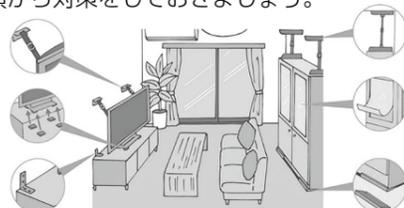
ローリングストックを実施

日常生活の中で食材などを多めに常備して使いながら、使った分を買い足し、災害時などに備える備蓄方法をローリングストックと言います。賞味期限の古いものから消費し、食べた分その分を補充しましょう。



家具等類の転倒防止対策

震災では、転倒した家具の下敷きとなってケガをする可能性があります。大地震が発生したら「家具は倒れるもの」と考えて日頃から対策をしておきましょう。



危険箇所の把握

Web版ハザードマップなどを活用し、身の回りで起こる可能性のある災害を知っておきましょう。(土砂災害・津波災害など)



江田島警察署通信 第115号

江田島警察署 ☎0823-42-0110



～春はどろぼうに注意！～

これから年度末にかけて、色々な行事もあり、あっという間に新年度になってしまいます。引っ越しなどが多いこの季節に多いのが泥棒です。

「皆さんは、外出するときに家の鍵を掛けていますか。」防犯教室などで、この質問をすると2割くらいの人しか、手を挙げません。「どうして、鍵を掛けないのですか。」と尋ねると「田舎なんじゃけん、泥棒なんか入らんよ。」「うちには、盗むようなものはないけんね。」と言われます。

犯罪が起きるには、「犯罪を行おうとする者」、「被害に遭いそうな者」、そして「犯罪を行う機会」が必要と言われています。防犯の基本は、この「犯罪を行う機

会」を作らない、つまり犯罪が起きにくい環境を作るところにあります。皆さんの自宅の鍵がかかっていないと、犯罪を行おうとする者に「犯罪を行う機会」を与えるようになります。

泥棒対策には、「①家の鍵を掛ける。②センサーライト(センサーチャイム)をつける。③監視カメラやダミーカメラをつける。」などが効果的です。

自分の家だけでなく地域でも、周りに住む人、道路を通る人などから目が届くように清掃活動をしたり目隠しとなる木を切ったりするなど犯罪が起きにくい環境づくりをしていきましょう。